令和８年度　第３回
利用促進分科会　参考資料１

平日１日フリー乗車券の発売について

令和８年度　第２回
広域協議会　資料４

① 目的

本年11月21日～12月20日に実施予定のデジタルスタンプラリーイベントに合わせて、平日でも利用できる1日フリー乗車券を新たに発売するもの

② 発売内容（案）

○発売期間	令和8年11月24日（火）～令和9年3月31日（水）
○発売金額	➢ 案①　600円＝土休日1日フリー乗車券の発売金額＋100円 ➢ 案②　800円＝最高額の片道運賃400円×2 ➢ 案③ 1,000円＝周遊による複数回利用を見込んだ額 ※土休日1日フリー乗車券＝大人500円、小児・障がい者250円
○利用日時	平日の9時～17時、全線で使用可能
○有効期間	令和9年3月31日までの1日に限り有効
○支払方法	クレジットカード等によるキャッシュレス決済



	販売拡大	収益性	周遊需要への適合	購入ハードル
案① 600円	○ 安価で試し買いのハードルが低い	× 普段使いの人が購入すると収益が下がる	× 何回も乗る人にとって割安感が薄い	○ 既存の土休日券との差が小さく、受容されやすい
案② 800円	○ 観光や周遊目的の需要は取り込める	○ 案①より高く、1枚あたりの収入増が期待できる	△ 周遊する層には案③ほど魅力的ではない	△ 往復で元が取れる理解で受け入れられる
案③ 1,000円	× ライトユーザーには訴求しにくい	○ ヘビーユーザーを取り込めば収益改善が大きい	○ 観光などで数回移動する層には魅力的	× 平日用としては高く感じられやすい

③ 総合評価（販売拡大と収益性を重視した場合）

案① 600円	低価格で購入ハードルは低く販売拡大に寄与しやすいが、1枚あたりの収益が小さいため大量販売が前提。短期トライアルには最適だが、単独で収益改善を確実に担保するのは難しい。
案② 800円	販売拡大と収益性のバランスが良い。600円ほど気軽には買われない層もいるが、1枚あたりの収入増が見込め、往復・複数回利用者の取り込みで総収入向上が期待できる。運用・販売面の負担も小さいため導入後の調整がしやすい。
案③ 1,000円	1枚あたりの収益性は高いが価格障壁が大きくライトユーザーの取り込みが難しい。結果として販売数が伸びず、「販売拡大＋収益性」の同時達成が難しい可能性がある。

④ 導入スケジュール

第2回協議会

8月 発売の協議 → **9月** 業者契約 → **9月～10月** システム構築 運行事業者との調整 → **11月24日** 発売開始